

第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2024年10月26日(土) 10:00~12:00
- ◇場 所 県立万葉文化館
- ◇参加者 【学生】東、田中
【万葉文化館】井上、阪口、中本
【大学教員】米田、大西 計7名

◇内 容 授業構想について

1. 田中愛花さん(国語教育専修3回生)

中学校3年国語科「万葉の世界から今へ ~過去・現在・未来へ思いよ届け~

【構想】

- ・万葉集の歌をいくつか取り上げ、歌に込められた思いを情景とともに確認する
- ・いくつかの歌の中から好きな歌を選び、歌にあうような写真を撮る
- ・撮影した写真を紹介する
- ・自分で短歌をつくる
- ・つくった歌を万葉仮名に変換する
- ・つくった歌にあった写真を撮影し発表する

【意見交流から】

- ・導入は額田王などの恋の歌がいい。中学生なら自分と重ね合わせて考えられるはず。地名が入っているものもいい。自分が知っている地名が入っていれば興味・関心が広がる。
- ・写真に撮るとというのは、歌の内容を視覚に訴えてみることにつながる。ただ、写真に撮ってしまうと文字とのギャップを埋められるだろうか。歌には映像言語だけでは語られない「余白」があるはず。
- ・短歌をつくるという作業は、子どもにとってかなりハードルの高いものになる。いったんイメージする単語を書き出して、それを57577に組み合わせていくのだけれど、ただ31音に収めればいいというものでもない。伝えたいことがちゃんと伝わるようなものになるか。
- 好きな写真から歌をつくる方が自然かも。写真美術館には万葉集の歌をイメージした入江泰吉の作品もある。それを使ってはどうか。
- ・万葉仮名に変換するとあるが、単に面白おかしく当て字をはめ込んでいくだけでいいのだろうか。「孤哀」と書いて「恋」を表現するような感性を大切にしたい。そもそも、万葉集の歌がすべて万葉仮名で書かれているわけでもなく、むしろ一部である。
- ・学習のゴールをどこに求めているか？それによってどんな学習を展開するかが変わってくる。「万葉集に親しむ」ということでもいいのではないかと思う。歌をつくる、万葉仮名について考える、写真を撮るなど、活動が多岐にわたっていてかなりレベルが高いものになっているように感じる。



2. 伊藤 輔先生（高取町立たかむち小学校:専門職学位課程教職開発専攻 M1）当日欠席

小学校6年国語科・社会科など「万葉歌碑を生かした『仮名の由来』を学ぶ」

国語科において、「仮名の由来」を学ぶ小單元があるが、漢字から平仮名・片仮名に至るまでの中継地点として万葉仮名が紹介されているだけで、詳しく学ぶわけではない。

万葉仮名について深く知ることを通して、言葉のよさや面白さに気づかせたい。

本校は、春の遠足で明日香村をフィールドにしている、6年生では自分たちでコースを設定してフィールドワークを行うので、万葉歌碑に注目させながら歩かせてみたい。

【構想】

- ① 3年生、4年生で春の遠足のときに万葉集の歌碑について確認しておく。（行事）
- ② 6年生の春の遠足において各グループで計画を立ててフィールドワークを行い、寺社仏閣や遺跡を巡るだけでなく、万葉歌碑探しをする。（行事）
※歌碑に関わるマップが必要
- ③ 万葉集について歴史的背景を知り、図書や chrome book を使って調べ学習を行う。（社会）
- ④ 万葉文化館を訪れ、学芸員の方の話を聞く。時間があれば歌碑の再確認。
※館内の紹介、万葉集がどのようにして生まれてきたのか、明日香村にどのような歌碑があるのかなど。
- ⑤ 一覧表を参考にしながら万葉仮名で書かれた万葉集の歌碑を読む。（国語）
- ⑥ 仮名の由来（漢字→万葉仮名→平仮名・片仮名）について学習する。（国語）
- ⑦ 万葉仮名と平仮名・片仮名の違いや共通点について意見交流をする。（国語）
- ⑧ 万葉仮名を使って、どのような思いで歌を作ったのか考える（国語）
- ⑨ 自分たちの考えた意見を基に学芸員の方の話を聞く。
※どの歌碑を使って学習を行うか、事前に決めておく。（現代語訳も準備）
※景色の写真や歌碑にまつわる写真も準備する。

【意見交流から】

- ・教科書の表記が、万葉集がいかにもすべて万葉仮名で書かれているような誤解を与えているように感じる。「万葉」という言葉に引っ張られているのではないか。
表音文字と表意文字が混在しており、すべてが万葉仮名で書かれているわけでもないし、万葉仮名だけの歌碑はない。
- ・そういう意味でも、あまり歌碑にこだわる必要はないと思う。導入で歌碑の表記に注目させるぐらいでもいいのでは。木簡などでもいい材料かも。
- ・「ふく」を、「吹」や「布久」と書いているものもある。
- ・「飛鳥」を、なぜこれで「あすか」と読むのか、「明日香」とどう違うのか。これを学ぶのもいい。
- ・仮名の五十音は、なぜ50ではないのか、表の「や行」「わ行」にはなぜ空白があるのか、今は使われない文字はなぜ使われなくなったのかなど、そこに注目させるのも面白い。
- ・もともとは、漢文を解釈するために使われるようになったのが仮名である。
- ・現場にいる人になら音声言語で伝えられるが、遠くにいる人に伝えるには文字が必要だった。そこで、外国語である漢字を借りて仮名を生み出していった人々の工夫や苦勞、思いを感じさせることが大事なのではないだろうか。
- ・万葉文化館の見学や学芸員の話については、何を知りたいか、何を聞きたいかにもよるが、ポイントをピックアップすれば1時間程度でできる。

